

## 都市計画道路について

お許しをいただきまして一般質問をさせていただきます。

なお、先の代表質問と一部重複する点もありますがご了承いただき、市長ならびに関係部長の前向きで明快なる答弁を期待いたします。

最初に、都市計画道路、木太鬼無線から錦町国分寺綾南線間及び、郷東檀紙西線から香西東町香西南町線間についてお尋ねいたします。昭和39年2月に高松市西部の基幹道路として、郷東檀紙西線が、また、昭和44年5月には高松市西部と高松市中央部を連結する、いわゆる木太鬼無線が都市計画決定され、当時、地元住民は大きな期待をし、早期開通を待ち望んでいたところでありませぬ。工事は平成6年4月に御殿橋西詰まで開通したものの、その後の工事は7年間近く、進行していません。本年から用地買収等に着手しているものの、財政事情の厳しきおり、まだまだ年月を要すると仄聞いたしております。本年8月高松貨物ターミナル駅の開業以来、3ヶ月の陸送状況から見れば、高松旧市内へは高松海岸線および木太鬼無線経由の利用便が多く、大型トラックの迂回による輸送の不便性や、沿線住民の生活環境に及ぼす影響は誠に大きいものがあります。

最近、地元から都市計画道路木太鬼無線の御殿橋東側から錦町国分寺綾南線（栗林トンネル線）まで郷東檀紙西線および香西東町香西南町線の未施工区間の早期開通について特に要望が強くなっています。そこでお尋ねいたします。ただいま述べました路線の早期開通に対する地元の情熱を市長はどのように理解されているのかお答えください。また、この路線の重要性について市長のご所見をお聞かせいただくと同時に、今後の事業計画および開通時期についてお聞かせいただきたいと思います。

## IT時代に対応した電子自治体について

次にIT時代に対応した電子自治体のありかたについてお尋ねいたします。最近、何かと話題になりがちなIT革命が、インフラ整備に重点をおいた一過性のITバブルになってはならないと私は考えています。今の財政危機を乗り越えるためには、地方自治体もITを利用した改革を進める必要があります。しかし、IT革命は相当な投資負担をもたらします。負担を克服して余りあるだけのリストラクチャリングを実現することができなければ、自治体のIT化は財政危機に拍車をかけることにもなりかねないと思います。ただインフラの整備を行っただけでは、逆に財政の重荷になってしまうということです。公共セ

クターにおいてもIT革命は確実にはじまっています。すでに「電子政府」、「電子自治体」という言葉が普及しながらも、民間ほどの改革の予感が感じられないのはなぜでしょうか。それは本市も含め公共団体のITへの取り組みの中から、IT革命の本質を感じることができないからではないでしょうか。自治体の抱える諸問題を解決し、新たな「公共サービスモデル」を創出するためには、自治体は電子自治体へと進化することが求められています。現在自治体の抱える諸問題とは、1 財政負担の削減、2 住民サービスの向上、3 透明性の向上、説明責任、4 新たな産業の創出、5 行政の新たな役割の創出などです。この課題にIT革命を契機に根本的な改革を遂げることが必要だと思えます。以上を踏まえ以下質問させていただきます。

IT技術は外部の組織との連携を飛躍的に向上させるといわれています。IT技術を利用すれば、現状では自治体を実施している業務を専門的な民間業者にどんどんアウトソーシング（外部委託）することができます。そこでお尋ねいたしますが、今後の委託業務のIT化を進める問題点、効果、今後の見通しについてお答えください。また、入札の対象となる総てをIT化することはかなりの労力を要するといわれていますが、公募業務や公募後の質疑等、一部はすでに利用可能であり、業務の効率化を進める必要があります。今後の入札業務についてIT化を進める問題点、効果、今後の見通しをお答えください。また、IT機能そのものをアウトソーシングすることが必要だということも聞きます。IT分野の発展は日進月歩であり、ソフトウェア、ハードウェアを公共団体が直接調達する方法は無駄な投資になってしまう場合が考えられます。またIT機能は初期コストに比べ、メンテナンスに要するコストが高いことも理由の一つです。資産を調達するのではなく、機能を調達する考え方です。民間のインフラを使うことで、民間企業の調達力、財務的な柔軟性、腐敗化のためのノウハウ、等により効率よくIT環境の整備をすることができます。結果として民間企業の培った基盤を利用し、公共セクターのIT機能は自動的にアップするし、効率的な無駄のない投資をすることができると思えます。IT機能そのものをアウトソーシングすることについて、現在の方法と比較し機能面・投資面についてどのような効果があるか、市長のご所見をお聞かせいただくとともに、今後の取り組みについてお答えください。

IT革命によって公共サービスに関する業務、IT環境の整備等を民間にゆだねたときの自治体の役割について考えたとき、公共セクターの役割の転換が必要であると思われます。時代は変わっていますが、公共的な機能はますます必要になっているのが現代社会だと思います。IT革命による自治体の役割のシフトについて市長のご所見をお聞かせください。現在Web上で電子自治体のフォーラムが開催されています。日本総合研究所が主催するフォーラムで、世界

各国の電子自治体の情報を提供するとともに、フォーラム会員とともにわが国における電子自治体の「サービスモデル」を検討・創出することを目的としています。12月現在の参画団体は179自治体、7団体で、徳島県、松山市、坂出市も参画しています。今後の電子自治体のあり方について研究、討議が活発に行われています。現在本市は不参加の状態ですが、本市も参画していく必要があると考えます。電子自治体フォーラムについてのご所見と今後の参画について市長のご所見をお聞かせください。

## IT専門職員の採用について

次に、IT専門職員の採用についてお尋ねいたします。高松市のホームページが開設され、多くの市民が利用していると思います。本年からは議会の議事録も何時でも何処でも誰でも閲覧できるようになりました。市議会が市民に開かれた議会になる大きな一歩だと私は考えています。ところで高松市のホームページはどのようにして作成しているのでしょうか。ホームページの即応性を十分に発揮させるためには、頻繁な更新が必要です。そこでお尋ねいたします。ホームページ更新作業を外部委託している比率、更新の頻度、アクセス数についてお聞かせください。また、どのページに対するアクセスが多いかもお聞かせください。私はIT革命に対応していくためには、専門知識をもった職員の養成、または採用が必要であると考えています。担当職員だけでなく、権限のある管理職に専門知識をもった人材を登用する必要があるのです。ITを活用した施策を推進するためには、情報化担当部署に他部署も協力できる「庁内の体制整備」が重要であり、今後、電子自治体推進のための部署を新設することも視野に入れる必要があると考えます。そこでお尋ねいたします。庁内体制整備の計画および担当部署の新設も視野に置いた専門職員の採用、養成に対する市長のご所見をお聞かせください。

## 公民館へのインターネット機器の整備

次に、公民館へのインターネット機器の整備についてお尋ねいたします。政府においては、IT革命の恩恵を総ての国民が享受でき、かつ国際的に競争力のある「IT立国」の形成を目指した施策を総合的に推進してきており、全国民がインターネットを使えるよう国民運動を展開することとしています。その一つとして、IT基礎技術習得のための施策を各省庁において推進することとしていますが、自治省においては国民がIT講習を受ける機会を飛躍的に拡大させるため、地方公共団体が自主的に行う講習会の開催を支援することとし、そ

のため都道府県に対する「IT講習推進特別交付金」を創設することとしています。予算規模は571億円余で、具体的には10分の10の補助金が市町村に交付され、学校や公民館等を使って全国で500万人程度を対象として、平成13年5月から平成14年3月までIT講習が開催されることになっています。しかし、公民館でIT講習をする環境は十分ではありません。インフラ整備の中で各出張所、公民館への市内LAN整備が本年度実施されたところではありますが、この設備も現在のままでは利用することに問題もあるかと存じます。これからの公民館での学習手法として、図書室などで書籍を読みながらインターネットで検索するということは十分考えられますし、非常に効果的であると思います。IT講習及びIT講習終了後も視野に入れた市民が利用できるインターネット機器の整備について教育長のご所見をお聞かせ下さい。また、本市の実施するIT講習の受け皿や実施概要についてお示しください。

## インターネットによる競輪の車券の購入

次に、インターネットによる競輪の車券の購入についてお尋ねいたします。平成12年度における高松競輪場の11月末現在における売上状況は122億円余であり、入場者数は130,385人となっています。昨年は共同通信社杯競輪を開催したため、本年と比較することは難しいとは思いますが、競輪界全体の経営が悪化しているのが現状であります。

このような経営状況において売上向上策としてインターネットによる車券の購入を考える必要があると私は思います。現在、JRAはパソコン通信による馬券購入システムをすでにスタートさせています。今、インターネット普及率は爆発的に高まっており、インターネットを利用した競輪の車券購入システムを検討する時期に来ていると思いますが市長のご所見をお聞かせください。

## サンポート高松完成に伴う行事について

次に、サンポート高松完成に伴うオープニング行事についてお尋ねいたします。高松駅、駅前広場、地下駐車場や港湾施設などは平成13年5月13日のオープンに向け工事が着々と進行しております。JRが建設中の全日空ホテルクレメント高松も5月24日には営業を開始すると仄聞いたしております。高松市の再生をかけたサンポート高松の完成は経済界のみならず、市民一人一人が心待ちにしていた施設であります。サンポート高松の完成は、全国、そして世界に高松を売り出す絶好のチャンスであります。オープニングの機会を利用した

イベント等を開催することも考えているとは存じますが、オープニングに伴う事業計画についてお聞かせください。

## IT博覧会の開催

次にサンポート高松の整備の進捗や、今、話題のフリーゲージトレインの導入などを視野に入れた中で、大イベントを開催する考えについてお尋ねいたします。近年開催された地方博覧会は淡路花博、山口きらら博、南紀熊野体験博、また、瀬戸大橋完成時は瀬戸大橋博88四国などがあります。本市で開催された博覧会について調べてみると、高松100年史には次のように書かれています。『高松市は何かの節目ごとに博覧会を催してきた。明治35年春には、高松港の第1期工事竣工記念として「関西2府16県連合共進会」を高松城内で開催、約30万人の入場者を集め、当時の不況風を吹き飛ばした。続いて昭和3年の春、同じく高松港第3期拡張工事竣工記念として「全国産業大博覧会」を開催。記念道路や高松城跡の会場に49万人の入場者を迎え、当時の不況沈滞の地元経済界へ活を与えたのである。第2次大戦後は全国的に復興大博覧会がブームになり、沈滞疲弊した日本経済復興のため開催されたものである。そのいずれもが成功したのを見て、高松市議会でも博覧会開催の気運が盛り上がり、昭和23年市制60周年記念事業として、観光高松大博覧会を開催することとし、翌24年に57万余の入場者を迎え開催され、424万円の黒字という大成功を収めた。』と記されています。しかし、その後40年間、本市において博覧会が開催された記録は残っていません。現在の不況を吹き飛ばし、市民に夢を与える博覧会の開催について考えてみてはいかがでしょうか。ITをテーマにした博覧会というのも考えられると思います。また、瀬戸内の港町高松のイベントということで、海上保安庁や自衛隊にご協力いただくのも一つの方法だと思います。市民に希望と活力を与える大イベントの開催について市長のご所見をお聞かせください。

## からくり時計の設置

次に、からくり時計についてお尋ねいたします。ヨーロッパの町に行くと、町の中心部に大きな広場があり、多くの人々が集い、そこには大きな市がたっているのをよく見かけます。古い町並みと教会、そして人々のにぎわいが、うまくマッチし、活気を生むと同時に魅力的な町に仕上がっています。ドイツのミュンヘンにある市庁舎には、高い塔があり、その中には巨大なからくり時計が仕込まれています。からくり時計が動く時間が迫って来ると、市庁舎前の広場

はからくり時計を見ようとする観客でいっぱいになります。このからくり時計は歴史もあり、巨大でたいへん楽しいので、ミュンヘン観光の目玉になっています。高松市内にもいくつかのからくり時計はありますが、いずれも規模が小さく観光資源にはなっていません。サンポート高松の目玉は何ですか。全国や世界に向けて自慢できるようなものは考えていますか。市長、よく考えてみてください。他県や他国の人々にとってサンポート高松は魅力があると思いますか。「サンポート高松にはこんなところがあります。ぜひ一度来てください。」と言える施設でなければサンポート高松は高松市の救世主にはならないのではないのでしょうか。世界に誇れるような魅力的な施設を考える必要があると思うのですが、サンポート高松は世界的に誇れるような魅力的な施設になるのか市長の考えをお聞かせください。また、その一つのアイテムとして日本一のからくり時計を設置することも考えられると思います。合わせて市長のご所見をお聞かせください。

## 観光絵葉書の作成について

次に、観光絵葉書についてお尋ねいたします。

旅行では必ずといっていいほど、多くの人がカメラを持参し、写真をとっておりますが、素晴らしい景色など個人では撮影できないものもたくさんあります。そんなときは、絵葉書を買って、その旅行先の楽しい思い出の一つとして残し、また、友人などにも絵葉書を見せて紹介しているのではないのでしょうか。

高松市内の観光地で販売されている観光絵葉書の中に、観光名所だけでなく、高松市の夜景を撮影したものもあると聞いております。しかしながら、中には町並みが実際とは異なっていたり、古い写真が今でも使用されていたりして、現在の高松市の姿が正確に伝えられていないのではないかという声も聞きます。国際会議を誘致しようとする国際観光都市高松をPRするためにも、外国人にも対応できる「高松はこんな街だ」という観光絵葉書を作成することはできないのでしょうか。ご所見をお伺いいたします。

## 高松空港及び高松港における国際路線の充実について

次に、高松空港及び高松港における国際路線の充実についてお尋ねいたします。先日、ある温泉地を訪ね、気持ちよく温泉に浸かっていました。湯船の中で中年の男性と一緒にになり、話し掛けたのですが、日本語は話せるものの、少したどたどしい感じでした。よく聞いてみると、団体で台湾から観光でやってきたとのことでした。中国や東南アジアは高度成長真っ只中で、低かった収入も増

加し、海外旅行に出かける人も増えているし、今後ますます増加すると仄聞しています。中国人の日本への渡航はこれまで制限が多く、日本に保証人がいないとビザを取得できないのが現状でした。しかし、今後は日本への団体旅行は制限が大きく緩和され、気軽に旅行できる環境が整うという報道を耳にしました。また、給与水準が上昇し、生活にも余裕が生まれ、数年中には日本に追いつくような勢いを感じます。国内旅行が低迷し、特に本市を訪れる観光客は大きく減少しています。しかし、この観光不況を打開する特効薬も見出せていないように思います。そこで期待できるのが海外からの観光客の誘致です。台湾、東南アジア、そして中国の人口は日本の比ではありません。施策しだいで海外から多くの観光客が高松にやってくるようになると思います。私は訪問したことがないのですが、ニュージーランドのオークランドは高松によく似た港町だそうです。しかし、オークランドの目は国内ではなく、常に海外に向いている国際都市だと仄聞しています。私は高松空港や高松港を世界に向けて売り出すべきだと考えています。サンポート高松の完成を契機として、高松を世界に売り出してはいかがですか。そこでお尋ねいたします。本市を国際観光都市高松として世界に売り出すことについての市長のご所見、そして本市の旅客だけでなく貨物も含めたポートセールスの経過と、今後高松空港及び高松港における国際線はどのような路線が考えられるのか、また、開設の見通しについてお聞かせください。

## 災害時の断水への対応

次に、災害時の断水への対応についてお尋ねいたします。私は先日、神奈川県厚木市にある、ぼうさいの丘公園を訪問しました。ぼうさいの丘公園は厚木市中心部から2キロほどの所にあった東京農業大学の用地9.2ヘクタールを総合公園として平成9年より整備し、今年完成したもので、広域避難場所に指定されている防災公園です。センター施設のほか多目的広場、遊びの丘、遊びの池、小動物園、子供の広場、展望広場などがあり、市民が憩いの場として利用しています。私が訪問したときも家族連れの楽しそうな様子や、グループでソフトボールをする光景を目にしました。この施設は名前が示すとおり、平常時は市民の公園として利用されていますが、災害発生時には2万人の市民が3日間生活をできる施設になります。センター施設の会議室は現地対策本部、傷病者室、医務室として使用可能ですし、地下には備蓄品がぎっしり詰まっています。また飲料用耐震貯水槽、ヘリポート、放送施設、照明施設、非難広場(40,000㎡)、井戸のほか、非常用トイレ210基を備えています。私はこの施設がよく精査された施設であることに感心させられましたが、特に非

常用トイレや飲料用耐震貯水槽は本市においても考える必要があると思われました。阪神淡路大震災の時、水洗トイレが断水によって使用不能になったという話を、よく聞きました。この教訓を取り入れて、ぼうさいの丘公園には3日間2万人の排泄量を計算して設計されている非常用トイレが設置されています。このトイレはマンホールの蓋の中心部が観音開きになる和式と、横長ベンチの上板を取るとベンチの足がトイレになる洋式があります。いずれも竖穴を掘っただけの構造ですが、中にはテントがおさめられており、取り出して組み立てると立派なトイレになります。また、普通のトイレにも内部に通常の水洗トイレとは別に非常用トイレが併設されています。

本市は災害の少ない都市だけに、災害に対する備えを怠りがちになっているように思います。私は中央公園や峰山公園、これから整備する東部運動公園、また市内の指定避難所施設など、災害発生時に利用する施設の整備が十分でないと考えています。そこでお尋ねいたします。災害発生時に水道が断水したときの飲料水を確保する方策と飲料用耐震貯水槽を設置することについて市長の考えをお聞かせください。また水道の断水時、トイレが使用できないときの方策と非常用トイレ設置に対する市長のご所見もあわせてお聞かせください。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ご静聴誠にありがとうございました。